

漢字はなぜ誤解されてきたか？

人は、言葉で物事を考えます。だから、理解する言葉の数が多ければ多いほど、その人の思考の幅は広く、理解する言葉の深さが深ければ深いほど、思考の精密度が高いわけです。近ごろ、アメリカで、人間工学研究所の大々的な調査により、「言葉を正確に、豊かに使う人が、あらゆる方面で成功している」ということが実証されましたが、それは当然のことだと言わなければなりません。

日本でも、最近、「漢字に強い生徒は、どんな学科にも強い」ことが、多くの学校の調査で明らかにされてきています。世界的な数学者として有名な岡潔先生は、

「子供たちの使う漢字を制限すると、思考力の発達が妨げられる。今のような教育が今後も引き続いて行なわれたら、日本の文化は滅びてしまう」

と警告されています。

明治以来、漢字は原始的な文字で、これを棄て、表音文字に改めない限り、西欧の文化に追いつき、追い越すことはできない、という考え方が、根強くなっていました。ところが、最近になって、表音文字よりも表意文字の方が機能的に優れていることがわかり、欧米語国では、何らかの形で漢字を取り入れる研究まで進められているようです。

ともあれ、人間の思考の土台になる概念を直接に表現している漢字を、一つでも数多く正確に理解することが、あらゆる学問、またあらゆる仕事を進めていくのに、最も必要な最も基本的なことであることは、まちがいありません。

本書は、若い人々に、現在最も欠けているといわれる正確な漢字の知識を補うべく、合理的な新しい漢字の学び方、考え方を提示するものです。漢字の学び方は、推理小説の謎を解くようであればいいません。クイズを解くようなつもりで、読んでいただきたいと思います。